

令和4年度第2回北区飛鳥山博物館運営協議会 会議録

日時 令和5年3月23日（木）午後2時00分～3時30分

会場 北区飛鳥山博物館 2階講堂

【出席】

運営協議委員 一君塚仁彦会長、真家和生副会長、吉富友恭委員、有馬純雄委員

阿久津光生委員、長濱恵美子委員、木下怜委員

博物館 一野尻浩行館長、鈴木直人事業係長・学芸員

松本みさわ管理運営係長、久保埜企美子主査・学芸員、

牛山英昭主査・学芸員、安武由利子学芸員、石倉孝祐学芸員、

谷口とし学芸員、工藤晴佳学芸員、田中葉子学芸員、

佐々木優学芸員、高坂勇佑学芸員

教育委員会 一小野村弘幸教育振興部長

【欠席】

石原淳委員、櫛野治和委員

【事務局】 本日は北区飛鳥山博物館の運営協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。初めに、北区教育委員会を代表しまして、教育振興部長よりご挨拶申し上げます。

【部長】

委員の皆様方には、日頃からの飛鳥山博物館の事業、また運営に多大なご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

飛鳥山公園の桜は、昨日と今日で満開となりまして、昨日、防災センターに行く用事がありましたところ、多くの花見客の皆さんが来られておりまして、近くの歩道橋の上から都電と飛鳥山の桜を一緒に収めようという方が非常に多くおり、やはりここは本当に桜の見どころで、花見のお客様が非常に多く集まっています。この時期は楽しみにされている方が非常に多いと思っております。ここ数年コロナの中、花見もできずに、非常に残念な

状況が続きましたが、第8波も終わり、少し落ち着いている状況の中、いい時期に花見を迎えられることになったということで、我々も喜んでいるところでございます。

北区飛鳥山博物館も、現在春期企画展を開催させていただいております。委員の皆様にも、ぜひこの後お立ち寄りいただけたらと思います。

本日の運営協議会は、今年度事業の中間報告、また次年度の計画の説明をさせていただき、委員の皆様方からも今後の運営について、様々ご意見、ご提言いただけたらありがたいと思います。本日もどうぞよろしく願いいたします。

【事務局】 つづきまして、配付資料の確認をさせていただきます。お手元に5点、お配りさせていただいております。

一つ目が、本日の座席表でございます。事前にもお送りさせていただきましたが、ご欠席など変更がございましたので、改めてお配りさせていただいております。

二つ目が、令和4年度事業中間報告でございます。

三つ目が、ドナルド・キーン生誕100年記念事業のパンフレットでございます。

四つ目が、春期企画展「I♥スーパー スーパーマーケットのチラシにみる昭和」の図録でございます。

最後に「ぼいす」です、北区飛鳥山博物館で出しております冊子ですけれども、その50号をお配りしております。

本日の次第、5年度の事業計画、5年度催し物予定表について、事前にお配りし、本日もご持参いただくようお願いしておりますが、お手元にはない方はいらっしゃいますでしょうか。

運営協議会につきましては、区の方針に基づき、会議の内容を議事録として区のホームページで公開させていただきたいと思っております。記録を作成いたします関係で録音を取らせていただきたいと思いますので、どうぞご了承お願いいたします。

なお、議事録につきましては、事前に委員の皆様からの発言内容をご確認いただきホームページに掲載させていただきます。

また、この会議は公開とさせていただきますので、傍聴を希望される方が本日もいらっしゃいますが、このことにつきましてもご了承いただきたいと思います。

本日は、委員9名のうち7名のご出席をいただいております。東京都北区飛鳥山博物館条例施行規則第12条第2項に定められました開催要件の半数以上の出席を満たしており

ますことをご報告いたします。

それでは、今後の協議会の進行につきましては、議長にお願いしたいと存じます。

【議長】 本日、足元の悪い中、足をお運びいただきましてありがとうございます。それから、分かりやすい資料をまとめていただいた事務局の方々にも感謝申し上げます。ありがとうございます。

有意義な協議会になるよう努めてまいりますので、ご協力方どうぞよろしくお願い申し上げます。

次第をご覧ください。まず、令和4年度博物館事業中間報告について、事務局より、ご説明お願いいたします。

【事務局】 令和4年度で事業報告、中間報告、12月末までの事業の報告でございます。まず1ページ目、館の利用状況でございます。

開館日数、228日、入館者数が7万2,813名でございます。令和3年度は14万6,648人を記録しておりまして、これと比べますと半分の入館者数になっておりますが、令和3年度は大河ドラマ館がございました関係で、非常に多くの入館者数になっております。

コロナ前の影響を考えると、平成30年度が7万9,195名ですので、ほぼコロナ前の状況に戻りつつあるという印象を持っております。

常設展示室の概要でございます。観覧者数につきましては、常設展示室の観覧者数は1万1,316名、令和3年度は5万1,565名でございます。先ほどのご説明したとおり、ドラマ館の関係で大きく減になっております。こちらもコロナ前の平成30年度と比較いたしますと1万3,994名ですので、コロナ前に戻りつつあると思っております。

次に、音声ガイドですが、利用者数が41名ございました。

そして、飛鳥山アートギャラリー第1室でございます。北区ゆかりの大野五郎氏の絵画作品を展示しておりますが、2万1,606名となっております。3年度は特別展覧会・わくわく展示・スポット展示の会場として使用しておりますので、人数の比較はできない状況でございます。

アートギャラリー第2室でございます。人間国宝・奥山峰石氏の鍛金作品を展示しております。こちらのほうは1万7,550人の観覧者数がございました。

続きまして2ページ目、展示の概要でございます。

特別展示室で行いました企画展が2回、特別展覧会が1回、わくわく展示が1回、スポット展示が1回でございます。わくわく展示と申しますのは、夏休みわくわくミュージアムで行った展示でございます。合計5回、188日間、163営業日で3万8,595人で行っていただきました。令和3年度は同じ回数5回で170日間を149営業日で行っておりますが、観覧者数が19,192名と非常に差のある状況でございます。

令和3年度は、このような展示関係の会場は3階のアートギャラリーで行っていただいたので、展示規模が通常の特別展示室で行うものと異なっております。その影響もございまして、令和3年度は少ない人数。そして3万8,595名の昨年度ですが、コロナ前、大河ドラマ館前の平成30年と比較しますと、平成30年は3万5,727名ですので、こちらもほぼ前の状況に戻っていると思っております。

続きまして、企画展でございます。令和3年度春期企画展「幻想の江戸ー異文化のまなざしに映った他者・表象・言説ー」を、4月1日から5月14日までの間、開催いたしました。総会期は令和4年3月23日からでございます。観覧者数は1万4,546名を記録しました。

続きまして、秋期企画展「縄文料理と弥生ごはん」でございます。こちらのほうは、10月29日から12月11日の会期で。観覧者数が1万173名で行っていただきました。

続きまして、特別展覧会でございます。「第21回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」、こちらは9月10日から10月10日までの1か月の開催で行っていただきました。昨年の工芸作家展は博物館講堂を会場とし、規模を大きくしての開催で行っていただきました。観覧者数は5,624人を記録しております。

続きまして、夏休みわくわくミュージアム・展示でございます。夏休みわくわくミュージアム☆2022夏休みわくわく展示「Made in北区を探せ！」を開催いたしました。狙いとしては、自由研究の素材提供ということで、子ども向けの展示となっております。夏休みの7月21日から8月28日までの期間で、観覧者数は3,943人を数えました。

続きまして、スポット展示でございます。収蔵資料展示「ASUKAYAMAセレクション5★2022★学芸戦隊キュレーター思いを込めて資料（これ）を推します！」という展示を行っております。通常、この収蔵資料展示「ASUKAYAMAセレクション5」は担当者ともう1名あるいはもう2名、2から3名の担当者が5つの資料をセレクト

しまして、そして展示するものですが、昨年度のこの展示におきましては、5人がそれぞれ一押しの資料を展示しまして、開催ということになっております。5月28日から6月26日までの会期で、観覧者数は4,309名を数えました。

続きまして、常展活用展示です。常設展示室を会場として、回想のためのテーマ展示「オボエテマスカ？－懐かしの暮らしと道具－」を行いました。

続きまして、「700年の時を超えて－王子村と王子神社－」でございます。こちらのほうも同じく常設展示室を会場として、王子田楽のコーナーの向かいの展示ケースを展示替えし、このようなタイトルで展示を行ったものでございます。

続きまして、イベントでございます。夏休み期間中、子ども向けの夏休みわくわくミュージアム2022を行いました。こちらは、展示、講座、クイズなど盛りだくさんの企画を用意し、博物館全体で夏休みを盛り上げていこうという企画でございます。

続きまして、講座・講演会です。一般向け講座・講演会33講座、展示関連講座5講座、夏休みわくわく講座13講座で51講座、72回、1,600名のご参加がございました。

3年度は6講座、10回、119名と数が非常に異なっております。こちらは、コロナの関係で、ほとんどの講座が開催できない状況でございました。それが51講座、72回を行うことになりましたが、コロナ前の平成30年度と比較いたしますと、56講座、77回行っておりますので、講座回数はほぼ同じになっている状況でございます。

平成30年度は参加者数が2,882名ございました。昨年度は1,600名の参加でございますが、これは平成30年度が、例えばこの講堂の収容人数80名を基準にして行っておりましたが、昨年度はコロナの関係もございますので、40名から50名、約半分の基準にして行って開催したことによります。野外講座に関しましても30名のところを昨年度は20名を基準にして開催しました。その関係で講座回数は同じですが、参加人数に差が出ているということでございます。

昨年度の講座の中でご紹介したいものがございます。

「国史跡指定100年 一里塚をめぐる」という講座を開催いたしました。タイトルのとおり、一里塚が国指定から100年を数えるということでございまして、板橋区志村の一里塚と、それから北区西ヶ原の一里塚、両方を巡る講座を企画しました。こちらの講座は、板橋区教育委員会の文化財係とのコラボレーションという形で開催いたしました。

つづきまして、文化財講演会「銭湯からまちを考える」という講演会を開催いたしました。こちらは、「稻荷湯」様が令和元年に国登録有形文化財の銭湯の指定を受け、これを

記念して令和2年にこの文化財講演会を行うことを計画し、コロナで開催ができず、昨年度に開催となったものでございます。

つづきまして、「考古資料を見て学ぶ」でございます。通常当館の講座の内容として、座学の講座、野外講座、子ども向けの講座ですが、今回は、何か制作する、工作するといった講座となります。この考古資料を見て学ぶは、当館の収蔵資料、考古資料を実際に見ながら解説をするという講座になっております。通常、口頭で行う講座にしましては、定員20名に限った形で行いましたけれど、多少広めの場所を取りまして、じっくり資料を見ていただくという趣旨でありますので、このような講座を開催しました。その後同じ20ページ目の展示関連講座・講演会で、こちらのほうは5講座に6回、開催しております。

そして22ページ目の夏休みわくわくミュージアム講座で13講座につき、25回開催いたしました。この夏休みわくわくミュージアム講座のほうも、コロナ対策として、通常よりも人数を半分に開催しました。

次に26ページ目をご覧になっていただきたいと思います。各種SNS・YouTubeでございます。

その中で、27ページ目のYouTubeに、動画を5つ上げました。令和2年度は講座の代替で動画を上げていたのですが、講座数が戻ったので、昨年度は数が減ったような状況でございます。

27ページ目の出張事業の一般講義4団体で7回行いました。

続いて28ページ目の団体見学でございます。団体見学のほうは、36団体で1,478名の参加がございました。この中で保育園・幼稚園が1園47名でございました。近年は保育園・幼稚園の来館はほぼなかったのですが、久しぶりに保育園・幼稚園の皆さんが来館されました。

続いて32ページ目の学校対応・支援事業でございます。小・中学校支援事業としましては、出張授業を行いました。

ここで一つ訂正として、番号が1、1、2というふうに振ってありますが、1、2、3の間違いでございますので、訂正させていただきたいと思います。申し訳ございませんでした。

またその1の小学校社会科授業「北区の歴史—原子古代—」というタイトルで、北区立王子小学校に出張授業に行っていました。6年生3クラス94名で出張授業を行っております。こちらの授業に関しましては、博物館が資料を持ち込みまして、手に触れても

らう、あとグループ討議をしてもらう形式で行いました。

2 番目、3 番目にある中学校職業紹介で、一つが北区立田端中学校で「田端中ハローワーク」、そしてもう一つが北区立赤羽岩淵中学校で「働く人の話を聞く会」、こちらのほうに学芸員が出向して、学芸員の仕事に関する話をいたしました。

続いて職場体験で実施校数は中学校 3 校 6 名が参加ございました。

3 3 ページ目の高等学校・大学支援事業でございますが、東京都立飛鳥高等学校からインターシップとして、1 名を夏休み期間中に受け入れました。

次に 3 4 ページ目の教員支援事業で東京都中堅教諭等資質向上研修というテーマといたしまして、北区立梅木小学校から先生を 2 名、研修としてお招きいたしました。

また学芸員実習としての博物館実習は、昨年度 4 名の実習生が参加いたしております。表にございますように、多種多様の館実習を行っております。また、3 5 ページ目の見学実習を行っており、実習校数は 4 校でございます。

3 6 ページ目では資料の貸し出しでございます。貸し出し件数が 6 件、貸出点数は 1 0 3 点でございます。

3 7 ページ目では資料の利用でございます。こちらは、6 2 件、2 6 8 点でございます。主にテレビ、そして雑誌に対する画像提供が非常に多くございます。

4 5 ページ目では資料の収集でございます。この資料の収集は 2 件、3 9 点ございました。表のほうには春日湯資料というふうにございますが、こちらの 3 3 点の中から数点、先ほど申し上げましたスポット展示のセレクション 5 で紹介をさせていただきました。

購入資料は 5 件、5 点でございます。

最後に、資料の保全で環境調査を 5 月 9 日から 6 月 1 3 日にかけて行いました。

4 6 ページ目で環境調査の結果があり、昆虫調査、菌類調査、温湿度調査、こちらのほうを実施いたしましたが、文化財害虫である「クロゴキブリ幼虫」「チャタテムシ」「ジンサンシバンムシ」が捕虫されました。しかし、昨年度よりは減少傾向にあるということが報告されています。

菌類調査ですが、空中浮遊菌・表面付着菌、また浮遊塵埃共に、数値は低く、環境は良好という報告を得ました。

温湿度調査に関しましては、1 0 地点で測定しましたが、各所、温度は良好でございます。湿度は展示室で低めの傾向でございます。B 1 の、地下のエレベーターホールでは高めの傾向が見られました。

この結果を受けまして対策としましては、炭酸ガス製剤（ブンガノン）を常設展示室に噴霧いたしました。そして引き続き捕虫器を設置し、一般清掃業務を徹底、そして温湿度管理を継続することを行っております。また、収蔵庫はガス燻蒸による害虫防除を行いました。その燻蒸でございますが、7月2日から7月11日にかけて行っております。

以上、雑駁ではございますが、ご説明とさせていただきます。

【議長】 ありがとうございます。

それでは、ただいまのご説明をお聞きになられまして、委員の皆様からご質問やご意見をいただきたいと思っております。ご意見等おありの方は、お手を挙げていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。せっかくの機会ですので、よろしく願いいたします。

令和4年度は、少しコロナ前にいろんなことが戻ってきているというご説明もございましたが、詳しい説明もございましたので、いろいろとご意見等があるかと思っておりますが、いかがでしょうか。

委員A、何かございますか。

【委員A】 本当に一生懸命やっていただいて、すごく素晴らしい講座が多いと思っております。

質問かどうか定かではありませんが、入館者とか講座に来てくださる方とか、人数はコロナ前に戻られたということについてです。この人数というのは、例えば男女比やリピーターの数、年齢といったものが、見た目では判断できないのかなと思いましたが、その統計みたいなものは何かあるのでしょうか。

【事務局】 まず男女比、それから年齢ですが、アンケートは取っております。しかし、それをまだ男女比やそのようなものを比較することはまだしておりません。ただリピーター関連の話でございましたけれども、正直コロナ前と後ですと新しい方が非常に増えている印象を、私の個人的な印象で増えていると推察しております。やはり継続は力ではないですが、講座をずっと続けていくとやはりコロナでストップされたせいなのか、新しい方がむしろ増えて、前の参加されていた方はすこしいないこともございます。ただ、まだコロナを心配している状況でございますので、これからさらにもう一度戻って来られる方がいると思っておりますが、印象としては先述したとおりでございます。

【委員A】 ありがとうございます。例えば、講座を申し込まれる方というのは、どの程

度の情報までお願いしているのですか。お名前なのか、住所はあまり聞かないのか。例えば男性、女性、その他に丸をつけるところがあるのかなどお聞きしたいです。

【事務局】 申込みに関しましては、往復はがきと電子申請の二つがございます。その中で、やはり往復はがきの場合には、ご住所も伺います。しかしお名前と住所と、それから連絡先に関しては、万が一何か郵送の不都合が生じた場合として、連絡先や年齢も任意で聞き取る形となっております。また電子申請のほうも基本的には同じような形でお伺いしております。

【委員 A】 ありがとうございます。こういった情報が分かるとターゲットを少し絞れると少し思いました。ありがとうございました。

【議長】 ありがとうございます。ほかにいかがですか。

委員 B、お願いします。

【委員 B】 ご丁寧な説明ありがとうございました。

今年も、非常にユニークな企画がたくさんあって、本当に素晴らしいなと思って聞いておりました。今、それぞれの講座や展示に対して、コロナ前と同等の人数が戻ってきているというお話がありましたが、その中で、一部講座では人数制限をされているというふうに伺いました。現時点で次年度になるのか、講座の人数制限の計画などがあればお聞きしたいと思いました。

【事務局】 コロナの状況がどんどん変わってきております。そのため昨年度はよく言われておりました会場の 50% を基準ということを中心に考えておりました。緩和傾向になりましたので、今年度、令和 5 年度の講座に関しましては、座学の講座を 40 から 60 に少し引き上げようとしており、60 人を基準にしております。実はいきなりこの講堂を最大 80 名にすると、少し危険というところもあり、むしろ入れ過ぎではないかという印象もございました。夏場の暑いとき、非常に人の熱気もあり、部屋自体が暑くなる状況だったので、60 名というところで押さえようと思っております。

それから、野外講座に関しましては、20 名から今度 25 名に増やして行っていきたい

と考えております。

【委員B】 ありがとうございます。恐らく人数は増やすだろうと私も想定していました。気になるのは、今まで人数が少ない中、どこに行っても人があまりおらず、そういう意味では逆に今、比較的ゆっくり講座を聞いたり、鑑賞物を見たりという環境に慣れてしまったので、ここに突如人数が増えると、コロナだからこそ味わえた感動が少し薄らいでしまうと思います。その部分に関しましては非常に難しいですけど、コロナの中で配慮してきたことで生まれた何か感動が薄らがないように何か工夫をしていただけると幸いです。ありがとうございます。

【議長】 お二人から貴重な意見をいただきまして、ありがとうございます。参考にしていただければというふうに思います。

ほかにご意見ありますでしょうか。

委員C、お願いいたします。

【委員C】 ご説明ありがとうございました。魅力的な企画展があって、僕もSNSをフォローしようと思いました。まだフォローしていなかったことに改めて気づきました。先ほどの入館者数のことに関してですが、大河ドラマの時期に入館者数が増え、コロナ前の状況に戻ったということでしたが、見学者が満足しているか、あるいは、展示の内容が伝わっているかという観点から、大体どれくらいの入館者数がちょうど良いとお考えか、お聞きできればと思いました。この数は博物館の目標設定にも関係すると思います。例えば、大河のときは人が多すぎて不満が出たりクレームが来たりしたことなどはなかったでしょうか。

【事務局】 確かに数値を出して目標ということも、あまりそういった数値化することが今までなかったので、最適ということならば、やはり並ばないぐらいの人数でしか、表現ができないと思っています。特に大河ドラマ館の時は、やはり密な状態にならないようにしている、入館制限とかしているが、やはり一時並んだりするので、そんなふうにならない。だからとはいえ、あまり閑散としているとにぎわいが感じられなくなります。今後は面積などを勘案して、これぐらいというのを少し調べてみたいと思います。

【委員C】 満足度のような数値だけでなく、実際の声や反応も含めて評価ができると良

いと思われました。ありがとうございます。

【館長】 飛鳥山の館長です。

貴重なご意見ありがとうございます。確かにこれまで企画展をやるときに、どのぐらいの入館者数を想定するかというところの目標ですが、そういったものは設定してきていなかったと思います。ただ、一番人気のある企画、やはり中身によってお客さんのニーズや来てみたいというような人気のある企画展も結果としてあったというところもございますので、そういった箇所を分析して、博物館を多くの方に知っていただくというのが最大の目標でもあります。そこを踏まえて、今後、目標を出して進んでいきたいというふうに思いました。

【事務局】 常設展示室ではなく企画展という形であれば、アンケートを頂戴しております。そちらの分析は各展示の中で行っています。ただ、それは公表していなかったものなので、なるべくそういったものを比較できるように、形を整えてご報告していきたいと考えております。

【議長】

大変重要な論点だと思います、見学空間をどう作っていくか、そういう視点でのやり取りだったと思います。ありがとうございます。

今ご説明のありました令和4年度の事業報告すなわち中間報告につきましてご承認をいただける方の拍手をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(拍手)

【議長】 ありがとうございます。拍手で承認とさせていただきます。

次の議題に行きたいと思います。令和5年度博物館事業計画について、ご説明を事務局からお願いいたします。

【事務局】 それでは、令和5年度北区飛鳥山博物館事業計画でございます。

1 ページ目でございます。令和5年度展示・イベント・講座・講演会の事業計画のポイ

ントでございます。

令和5年は開館25周年の年に当たります。そこで25にちなんだスポット展示あるいは博物館の歩みをふりかえるミニ展示、北区の歴史を振り返るリレー講座などを計画しました。また、令和5年は飛鳥山公園開園150年と、それから関東大震災100年に当たりますので、これらに関連した講座を計画いたしました。

展示・イベント・講座・公演会の事業数でございますが、企画展、特別展覧会、以下夏休みわくわく展示、学校対応展示、スポット展示、ミニ展示、常展活用展示を含めた、これを合計しまして9回を予定しております。イベントに関しましては、夏休みわくわくミュージアムを1回予定しております。

講座でございますが、一般向け講座35講座、展示関連講座8講座、わくわく講座17講座で60講座、88回を予定しております。

2ページ目でございます。

企画展は3回予定しております。こちらのほうは、今、3月23日から開催しております、令和4年度春期企画展「I♡スーパー スーパーマーケットのチラシにみる昭和」でございます。そして、2番目に秋期企画展「縄文人の資源利用」、こちらのほうを10月21日から12月10日までの会期で予定しております。三つ目としまして、春期企画展「日本文化とファッションプレート」、こちらのほうを3月16日から5月14日の会期で開催する予定でございます。

続いて特別展覧会では、「第22回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を9月9日から10月9日を会期として開催する予定でございます。

夏休みわくわく展示では、夏休みわくわくミュージアム☆2023「みんなの学校」と題しまして、7月21日から8月27日までの会期で開催する予定でございます。

4ページ目の学校対応事業展示は、「来て、見て、知って！昔の暮らし展」を12月23日から2月29日の会期で行う予定でございます。

そして、スポット展示は、ASUKAYAMAセレクション25となっております。例年ではASUKAYAMAセレクション5ということで、五つの資料をセレクトして展示するのですが、25周年ということもございまして、25点展示する予定でございます。この25点は学芸員全員でそれぞれ担当分野から資料を展示する予定でございます。

そして、ミニ展示は1回開催を予定しております。こちらはパネル展示で、「おかげさまで25周年博物館の歩んできた道、歩む道」ということで、ホワイエあるいは閲覧コー

ナーを使いまして、5月27日から25周年イヤーとして12月27日までの会期で開催する予定でございます。

そして、5ページ目の常展活用展示では、〈回想のための〉テーマ展示「オボエテマスカ？－懐かしの暮らしと道具－」を3月16日から6月18日の予定で開催する予定でございます。

そして、イベントの「夏休みわくわくミュージアム☆2023」では、夏休み期間中7月21日から8月28日の会期で開催する予定でございます。

続きまして、講座・講演会での一般向け講座が35講座、50回でございます。こちらのほうは、先ほども申し上げましたが、座学を40名から60名に引き上げて、そして野外講座を20名から25名に引き上げます。

続きまして、7ページ目の講座・講演会の中では、トピックスを幾つかご紹介したいと思います。

25周年ということでこの7ページ目の6番の「北区再発見！学芸員リレー講座」というものを開催する予定でございます。こちらは前期で、概略ですけれども、当館は開館25周年を迎えましたので、その間新たな資料の発見や様々な知見が分かってきました。そこで北区の歴史を新たな視点を織り交ぜて、学芸員全員がリレー方式で北区の歴史を振り返るということで、古い時代から新しい時代に向かって、各学芸員がリレー方式で連続講座を行う前期分に当たるものです。前期は、旧石器、縄文時代、そして弥生時代、古墳時代、飛鳥から平安時代、そして鎌倉から戦国時代を予定しております。

続きまして、8ページ目の12番「関東大震災記録を読む」では、ちょうど今年が関東大震災から100年目にあたるということもございまして、こちらのほうを予定しております。

続きまして、9ページ目の14番「公園指定150年記念飛鳥山公園の歴史」ということでは、飛鳥山公園を近代公園として成立してから150年を迎えますので、飛鳥山公園の歴史ということで講座を開催する予定でございます。

16番「北区再発見！学芸員リレー講座」の後半部分は、江戸時代、明治、そして大正から戦前、そして戦後から平成までの北区の歴史を振り返ってみるものでございます。

続きまして、13ページの32番「守貞が見た江戸の暮らし～民俗・考古コラボ編～」ということでは、学芸員、各担当分野がございしますが、その担当分野を一緒に一つの講座をやってみようということ、民俗から見た視点、見る視点、考古学から見る視点、こう

いったものを一緒に講座の中で展開していこうというのが、この講座の趣旨でございます。

続きまして、14ページ展示関連講座では、8講座での8回を予定しております。

また16ページの夏休みわくわく講座は16講座での29回を予定しております。令和4年度は人数を8組16名ということで基準にしていたのですが、こちらも少し増やしまして、12組24名で行う予定でございます。最大で16組32名が入りますが、それだときつい状態になってしまいますので、12組24名で行う予定でございます。

さらに、この夏休みわくわくミュージアムの講座に関しましては、非常に人気講座でお申込みが集中するという傾向でございます。例えば夏休み土器づくり教室、そして勾玉づくり教室、藍染、団扇作り、こういったものは人気がある講座ですが、複数の学芸員が集中して講座数を増やしながら開催する予定となります。

続きまして、21ページ学校対応・支援事業では例年どおり、「来て、見て、知って！昔の暮らし」を1月10日から2月29日まで開催する予定でございます。

そのほか、2番の体験授業、それから3番の出張授業に関しましては、通年の中でご依頼がございましたら実施するという形を取りたいと思っております。

22ページ学芸員実習の博物館実習を、令和5年度は8月1日から8月13日の2週間、実質12日間で開催する予定といたします。現在、もう募集を締め切りまして、実習生を選考中という状況でございます。さらに見学実習も通年ですが、ご依頼に応じまして実施する予定になっております。

23ページ出張事業で、回想法プログラム「昔の道具で思い出がたり」もご依頼がございましたら開催する予定でございます。また、一般講義に関しましても、通年、ご依頼がございましたら開催する予定でございます。

団体見学での一般見学や学校などの見学は、こちらもお受けする準備をしております。

24ページ資料の貸出・利用、それから資料の収集は、こちらのほうも受付を行っております。

そして25ページ、資料の保全につきましては、環境調査を5月から6月に行いまして、それを受けまして燻蒸を7月1日から9日間、9日の間で行う予定でございます。

【議長】 ご説明ありがとうございました。それでは、ただいまのご説明に対しまして、ご質問やご意見ありますでしょうか。挙手をお願いいたします。まだご発言いただいている委員の方々、いかがでしょうか。

【委員D】 はい、それではよろしいでしょうか。

【議長】 お願いいたします。

【委員D】 意見として、この郷土資料館になるもの、特に東京都の郷土資料館の地域の歴史的な遺産の掛け算と、もう一つの要件での、人口や財政力という予算規模の掛け算ですと、郷土資料館というのは出来上がると思っております。

二つ目は、人口30万、中堅所得層の北区のそれほど大きい財をかけることはできないと思います。対して港区の郷土資料館を見ても立派なものです。それと比較することはいいとして、北区の財産、歴史的財産はとてもすばらしいものがあって、特に申し上げたいのは、今年度事業などを、タイトルだけ引っ張り出して一応羅列して見ました。この事業計画は、時系列で並んでいますので、見ていると面白いなという感じで進んでいきます。大変すばらしい内容を感じますが、時系列でなくて文字面、タイトルを並べて、並び替えしたものを作ってみました。すると、やはり考古学や遺跡学といった文言が割とタイトルの中に多く見受けられるような気がしました。

この北区飛鳥山博物館、やはり北区が太古に面してきた海面から出てくる貝塚に伴う人々の生活を23区内の郷土資料館の中でも特徴がつけられるものの遺跡の一つだと思います。そこに重き置きながら、事業計画がつくられてくるような気がいたしまして、立派な遺産を活用されることを、これから期待させていただきたいというところがございます。

質問でございますが、この展示概要を見させていただいて、連綿たるこの北区の地域というものが分かるわけですが、中世期辺りになってくると、取り上げている機会が少ないという気がしないでもない。歴史的なものについては、スポット的に取り上げられて、あるいは研究対象として見ておられる方々が取り組んでおられる中で、毎年タイトルを掲げて事業として取り上げることは、なかなかできないと思います。けれども、意見として申し上げれば、ちょっと偏りがあるというところでありまして、その辺りは、実際やっておられる立場として、どういうふうに考えておられるのかという質問でございます。

【事務局】 講座の内容に偏りがあるというようなご意見でございました。確かに学芸員が専門としているところが中心になるのかなということで、また逆に幅広くやろうとする

と、逆にできなくなってしまうので、そのような傾向が出てきたと思います。

ただ、それも踏まえて、来年度25周年では、もう一度北区の歴史を振り返ろうということで、リレー講座をやります。こちらに関しましても、我々もただ引き出しがあつてというわけではなくて、もう一度学び直して、色々なことの発見などをまとめ直して、講座に移行していきたいと思います。そのため、令和5年度、6年度、7年度とこれから進めていく中で、もう少し北区の歴史が満遍なく分かるような講座を考えていきたいと思ひます。

【委員D】 ありがとうございます。

今年のメインテーマの展示内容ですけれども、「ほりぶん」という今から半世紀前に開店したスーパーマーケットがたまたま潰れてしまい、こういう形で取り上げるべきなど、もし他の大手のチェーン店ならできる話ではなく、高度成長期の大量消費時代にどのように人々が生きてきたかということを実際展示できる企画はとても素晴らしい。本当に潰れたことは残念ですけれども、そのサンプルとして「ほりぶん」があつたことはいいことで、それから資料内容も見させていただきましても、大変よくそろえておられますし、非常に丁寧に作り込まれているので感心させていただいた次第です。

そのため、先ほど満遍なくというお話はさせていただきましたが、本当に掘り当てたものはとても大きいものがあると思ひて期待させていただきたいと思ひます。

【議長】 ありがとうございます。特にお手元にお配りいただいているこのスーパーマーケットのチラシを資料の対象にするのは、全国的にも珍しい展示で、しかも視点も鋭いですね。そのため、ある意味でミクロの経済がこういう視点から明らかにされるということと考へます。大変貴重な展覧会と思ひております。ありがとうございます。

それでは、委員E、いかがでしょうか。

【委員E】

まずはいつもお世話になつておるお礼を申し上げたいです。5月にはまた北区飛鳥山博物館に来館させていただきました。渋谷栄一の「青天を衝け」が放映終了後も、これからお礼の肖像になるという中、中学校は副読本を作りました。私が講師になつて、子どもたちを連れて青淵文庫などをいろいろ回りまして、最後に館長にお世話になり、館長はたま

たま本校の卒業生だということも、私も朝礼でも話をしているので、本校の先輩という形で子どもたちには、どのように使ってもいいということで、渋沢栄一について調べてみた後常設展も観させていただきました。

私としては、小学生の頃からもう分かっている子ばかりだと思っていました。すると、最近この地域には高層マンションができています。そのため、保護者の皆様に博物館や飛鳥山に興味を持って、来館された。「子どもに聞いて、来たのですが、いい所ですね」と、北区の魅力はやはり、このイギリスのリッチモンドの風景を持っている。ここに今、三つの博物館がある、その中の北区飛鳥山博物館に行けた。だから、子どもを通して新しい発見をした保護者もいて、そういう面では本当につながれたと思いました。

もう一つのつながりですけれども、私は文化財講演会の中で「銭湯からまちを考える」という講演に出させていただきました。実は私が今から20年ほど前、文京区で、この講師を務めた講師は私の教え子です。そして、何十年ぶりに再会したときに、銭湯について、建築デザインについて、非常に立派に話している。その子は当時非常に悩んでいました。なぜなら、講師のお父様は、有名な宇治平等院鳳凰堂の資料館や奈良の国立博物館を手がけた日本でも有数の建築家で、どこへ行ってもお父さんと比較されて、お父さんがいるからひいきされてしまう。そういう中では、自分は違う道を歩もうと、建築デザインを考えたことを、昨日聞きました。昨日私の家で聞いてからうちの学校で、キャリア教育という観点で話してくれないかということで、私の教え子の産婦人科医になった男の子と、一緒に来て話をしてもらいました。

そういう面では、この一つの建物を通して、人と人がつながる北区飛鳥山博物館ということで、今はこの魅力を知らない地域の方がたくさんいらっしゃる。そういう意味では、今度の計画の中でも何か学校を通して、子どもを通して、これからも伝えていきたいと思っています。いつもありがとうございます。

【議長】 温かいご意見だったと思います。ありがとうございます。

それでは、委員F、いかがでしょうか。

【委員F】

今は、5年度の事業計画という議題ですけれども、幾つかほかの委員の方々の非常に鋭いご指摘を伺って思ったことを3点、個人的に質問とさせていただければと思います。

一つは、今、有馬委員がおっしゃった事業内容を分析されたことについて、非常に私は面白いと思って伺っていましたが、一つは時間軸で、縄文あるいは先史時代から現在までの時間軸と、それぞれの学芸員専門の視点でのマトリックスで館を捉えることは非常に重要だと思います。

ただ、相関的に全部はなかなか難しいことなので、例えばうちの美術館は西洋の近代美術や浮世絵をやっているといった特色を全面に出します。そのため、逆に北区飛鳥山博物館では、全体はもちろん北区という地域から見た日本の全部の歴史、あるいはそこから広がる世界の歴史を見るけれど、ここがポイントですというのをもう少し強調してもいいのかなと感じていたところです。これが第1点です。

それからもう一つは、コロナの時期で、皆様が様々に企画や運営、その後の目に見えないところの展示以外のところでも、いろいろな新しい場面を形成されてきたと思います。個別な細かいことですが、私のいる町内会でも色々なイベントをやっていたということで、それぞれ皆さんがご苦労されたことを身近な内容として理解しています。このような経験は、またこういう感染症は再来する可能性もあるので、マニュアル化しておく必要があるのではないかと今、私は感じています。

このマニュアル化も一つの館だけでできるわけではないので、先ほど委員の方がおっしゃっていたように、何人が適正かということやそのような数値で出る部分もあるかもしれません。しかし、どこに気をつけるべきか、うちの館ではこういう換気ができるなどの個別のマニュアルはあるのではないかと思います。それをほかの館の方と共有する場があってもいいと思います。あるいは日博協で、また世界の様々な施設で共通のマニュアルを作ることも、一つの出発点として意識しておくといいのではないかと考えています。その共通理解やこの館独特のマニュアルと思うので、このような感染症が起きることを前提にして、そういう積み重ねがあるのも大事なことだということが2点目の感想です。

ただ3点目は、先ほど来館者のことで話題になりましたが、来館者の方を集めるということはすばらしい努力のもとになっていると思いますが、これを来館者のほうに発信しているかどうかと思いました。例えば上野動物園では、パンダを見に来た人の数や国立科学博物館の恐竜展での数のようなフィードバックがあります。したがって、北区飛鳥山博物館の企画展での何人が来たとかという表現の仕方をされますが、やはり館を愛して来られるリピーターの方にすごい力になるため、来館者が何人かといった情報も出すべきだと考えています。

それから思いつきですが、何万人目でプレゼントをあげるというような発想も面白いと思っています。来年度が25周年なので、そこに向けた来館者の方と一緒に祝えるようなイベントもあつたらいいのではないかとということが3点目です。

個別の質問として思ったことは、保育園や幼稚園の見学での来館者として、保育園児さんや幼稚園児さんは、やはりまだ十分な学力を持っていないという状況です。そういう小さいお子さんがどこを楽しまれたのか、またどのように、博物館がどういったものと認識しているのかという情報を提供できたのかということを担当の方が何か感じておられたら、少し伺いたいと思いました。

【事務局】 保育園や幼稚園の見学に関してですが、様々なパターンがありまして、小学校や一般の方でも、学芸員が説明することや自由に見学するということがあります。保育園や幼稚園の来館のときは、特に我々学芸員が説明することはありません。公園に来て、その過程で博物館があるので行ってみようということだと思います。

ただ、あまり幼稚園のお子さんが見学するシーンがないので、やはり内容を楽しんでいるというよりは、もちろん説明や文字を読んだりするわけではないので、すごく大きいものや見たことないものを見ているのだと思っております。したがって、見学方法も子どもたちが手をつないで、そこを列にぐるぐると回って、それでひとときを過ごして帰るといった形が多かったような気はします。

そのため、何か非日常的な、家では感じたことないものを見られるところが、幼稚園や保育園の先生方も来館される理由だと、少し私の個人的な感想ですが思います。

あと、結果報告として、企画展では、ぜひSNSといったものを通じて、「おかげさまで何人入りました」というようなことは、随時発信してもいいと感じました。

そして、何万人目ということは、以前やったことがございます。その何万人目を数えるのが難しいところもございましたが、一つのイベントとして、これからは念頭に入れてもいいと思っております。それが企画展レベルやこの博物館の来館数が200万人というところでも、本来はできると思っております。

あともう一つ、コロナの今回の経験というものを終わりということではなくて、覚えておくために何か記録に取っておくのはいいと感じたところがございます。

【議長】 よろしいでしょうか。

ほかに、ご意見やご質問等はございませんでしょうか。

それでは委員D、お願いいたします。

【委員D】 北区ニュースのことについて、前回開催時に、イベントについて掲載というインパクトがあるような、分かりやすいように、あるいは北区飛鳥山博物館の開催内容がすぐ分かるデザインにしてみてもどうかというご提案を申し上げましたが、それができないというお話があったと、事務局からお聞きしております。

しかし、先だって3月10日号のそのお知らせの最初に、こちらの運営協議会のこと最初に出ておまして、少しは意識していると思ったところでもございました。

【議長】 はい。ありがとうございます。

ほかに、最後になりますけれどもいかがですか。

せっかくですので、じゃあ委員Bにお願いしたいと思います。

【委員B】

先ほどお話にあったコロナをきっかけにした知識や経験を何か形にしておくということは、私も非常に重要だと思っております。恐らく世界のあらゆる会社や機関が同じようなことを取り組まれていると思います。そのときに、少し私から先ほどご質問したことに絡みますが、感染対策のようなある意味、物理的なものに対する蓄積というのは、当然必要だと思います。しかしながら、そのときにどういった取組み、例えば展示での講座などでどういった工夫をしたかと、それに対してどのような反応があったかの中身に関する蓄積に関してはぜひ必要だと思います。恐らくそのアンケートのようなものがかなり役立つくると思います。

そもそもそれは決して今度感染症がはやったときだけでなく、今後、感染症がない時代の展示やそのような企画にもフィードバックがある内容だと思いますので、もし可能であれば取り入れていただきたいと思われました。

もう一点、SNSは私もずっとフォローさせていただいていまして、非常に楽しくいつも拝見しております。そもそも郷土資料館がSNSのアカウントを持っていることは、非常に珍しいと思っています。23区の郷土資料館では全くSNSのアカウントを持っていないというところも多数ある中で、飛鳥山博物館はTwitterとInstagram

と二つも持っていられっやいます。

少しもったいないと思ったことがまず一つあって、SNSへの導線に関して、恐らく飛鳥山博物館のホームページからTwitterには行けないというふうに思いました。トップページからSNSに飛ぶリンクのようなものがなかったため、そこももったいないと思いました。

今はどんなページでも、トップページにTwitterやInstagramがあるかということがありますが、実際に詳細はそちら側を見るような動線がかなり主流になってきていますので、その導線を持って来ていただけるといいと思いました。

今回、SNSのTwitterをずっと拝見していて、今まさに開催しているスーパーの企画に感動しました。そのSNSの紹介の仕方に関して、スーパーという切り口は非常に面白いとも思ったのですが、なぜ北区の博物館でやるのかが少し分かりませんでした。ページを読んでみると、「ほりぶん」から来ていることは分かりましたが、そこは多少調べないと少し分かりませんでした。

そのため、スーパーという観点に面白いと思ってくれる人しか、その文面ではキャッチできないので、もういっそのこと企画に「ほりぶん」や北区でなぜやるかということの根拠がキーワードとして入っているのがベストですが、いずれにしても紹介する文章の最初のところに、なぜこれをやっているのかが入っていると、非常に納得感がある動機づけになりやすいと思いました。

その中身の部分は、皆様がすばらしい展示をつくっていらっしゃるので、SNSのほうは、なぜそれをやるのかというところの導入の部分や動機づけの部分をそういうふうに使っていただけると、とてもいいと思いました。すみません、ありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。

何かございますか。

【事務局】 コロナのマニュアル化の中で、どのような工夫をしたかのようなことも含めて、まとめたほうがよろしいというご意見は確かにそういうふうに考えますので、その辺も含めて少しやってみたいなと思っております。

SNSのほうですが、ホームページからそのままTwitterやInstagram

にというところも、それも工夫できるか可能性を探ってみたいと思います。

また、我々もまだT w i t t e rやI n s t a g r a mに、まだ慣れていないところやいろいろ工夫を重ねなければいけないところもあると思います。つい先日、担当がSNSの研修に行っただけで、学芸員の中で共有して、試行錯誤してやっておりますので、今のご意見をこうすると見やすいことや食いつきやすいなどのご意見ですので、ぜひ参考にさせていただきながら、今後もT w i t t e rのほうを進めてまいりたいと思います。

【委員B】 ありがとうございます。T w i t t e rは特にテキストベースのもので、非常に博物館と相性がいいと思います。

今後も楽しく拝見させていただきますので、お忙しい中よろしくお願いたします。ありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。

ほかに何かご意見が無いのならば、たくさん意見をいただきました。非常に今回は3年続いたコロナ禍で、日本の博物館全体が様々な課題に直面いたしました。やはり博物館の運営も変更を強いられることも多々ございまして、この経験を踏まえて、今後、もう25周年ということなので、次の25、50、100、200、この博物館がずっと永続していくと思いますので、それに向けて有意義な活動を積み重ねていかれることを願っております。

今日の様々なご意見を出していただきましたけれども、一つ一つ非常に重要な意見だと思いますので、ぜひ今後の博物館活動に役立てていただければというふうに思います。

それでは、その後に見学があるということで、司会のほうをそちらのほうにお返しいたします。よろしくお願いたします。

【事務局】 議長、委員の皆様、本当にどうもありがとうございました。

それでは、最後に館長より閉会のご挨拶を申し上げます。

【館長】

本日も本当にあつという間のお時間で、その中で君塚会長から最後まとめていただきましたが、委員の皆様から様々なご意見とともに応援のメッセージをいただいたというふう

に捉えております。やはり、根底にあることは、北区飛鳥山博物館に多くの方に来館していただいて、このすばらしさを知っていただく、北区のすばらしさを知っていただくということがあると感じた次第でございます。

本日いただきましたご意見等を私たち職員一同がしっかり受け止めて、新年度の講座や企画等に生かしていきたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

【事務局】 それでは、以上をもちまして、第2回運営協議会を終了させていただきます。

今回は令和5年度になります。第1回運営協議会をできましたら5月ぐらいに開催をさせていただければと思っておりますので、日程等につきましては、会長や副会長の先生方と調整をさせていただきます、日程が決まりましたらご連絡をさせていただきたいと思っております。

この後の展示のほうを少しご覧いただきたいと思いますが、その前に、この3月で退所となります職員2名がおりますので、ご挨拶をさせていただきたいと思っております。館長と学芸員Aでございます。

まず、館長、お願いいたします。

【館長】 改めまして、貴重なお時間をいただき、お礼の言葉を述べさせていただきたいと思っております。

平成30年に博物館長として着任して以来、大きな事故やトラブル等がなく、館長として5年間つつがなく務めさせていただきました。ありがとうございました。この間に新型コロナや大河ドラマ館の施設として貸し出すといった想定外の出来事もありましたが、館長として5年間務めさせていただいたということは、これもひとえに北区飛鳥山博物館の学芸員、事務職員、一人一人が支えてくれた、また管理運営を担っていただいている関係事業者の方々のご協力、そしてあらゆる角度からご指導やご助言いただきました君塚会長をはじめとする運営協議会委員の皆様のご支援のおかげだと心から感謝しております。

北区飛鳥山博物館も開館25周年を今年迎えます。まだまだ発揮していない、大きな未知なるポテンシャルがあると私自身は強く思っておりますので、引き続き、委員の皆様のご指導、ご助言、ご支援を賜りたいと存じます。何とぞよろしくお願いいたします。

本当にどうもありがとうございました。

(拍手)

【事務局】 続きまして、学芸員Aでございます。

【学芸員A】 中世と近世を担当した学芸員でございます。

5年前に定年退職した後に再任用ということで5年間ですが、3回の企画展や講座、今年度は毎月講座をする機会がありました。

平成2年にここの建設準備ということで入りまして30年以上になります。その間、非常に誤りの多い私でございますが、大過なく過ごすことができましたことは、ひとえに運営協議会の諸先生方のお導きや理解のある上司の方々、そしてとてもすばらしい学芸員の同僚の皆さん、それから事務の皆さんというような人たちのまさにお導きがあったからだ
と本当に感謝しております。

今後ともよろしくお導き、ご教導のほどお願い申し上げます。ありがとうございました。

(拍手)

【事務局】 ありがとうございました。

それでは、この後に10分ほど休憩を挟みまして、館内の展示のご見学をいただきたい
と思っております。展示は2種類です。一つが、アンコール展示「ドナルド・キーン展」
です。もう一つが、春期企画展「スーパーマーケットのチラシにみる昭和」、こちらをご
覧いただきたいと思っております。

まず、先に申し上げました「ドナルド・キーン展」ですけれども、これは、お手元に資
料を置かせていただきましたが、北区が主催で行っております、ドナルド・キーンさんの
生誕100年記念事業に、当館や図書館などが協力をして、区内の様々なところで展示を
開催しております。当館の今回の展示につきましては、平成24年度にキーンさんの検証
事業として行った展示のダイジェスト版となっております。

二つの展示につきまして、いずれも学芸員がご案内いたします。

本日は大変ありがとうございました。